学校番号	1006

令和２年度　美術科

教科	美術	科目	彫刻	単位数	２単位	年次	２、３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・　立体作品を制作し、完成や造型感覚と創造的な構成の能力を高めます。

2　学習の到達目標

・　造形的な創造活動の基本となる諸要素の理解を深める。
・　完成や造型感覚と創造的な構成の能力を高める。
・　作品の制作のプロセスを学び、展開能力を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	課題を進めながら、立体の魅力を理解し、作品を制作する喜びを味わう。 生徒間でお互いの作品を鑑賞し合い、話し合えるようにする。また、作品を鑑賞する感性を引き出せるように指導する。	個々の生徒が本来持っている感性を生かした作品を作るように、適正な指導、助言につとめる。	実技指導を、制作や自己表現に自信を持ち、興味を持たせる。	講義によって知識を学び､その後の実制作を通して実体験として身に着ける。
評価方法	・　受講態度 ・　観察（取組状況、制作態度）	提出作品	提出作品	鑑賞レポート レポート(作品スケッチ、文章)

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		

1学期	オリエンテーション	１年間の授業の進め方の説明。 美術系の進路について。	○				a:彫刻に対する興味をもち、自分の進路について考えていく姿勢があるか。	受講態度
	描写①	モチーフの特徴を捉えた構成、観察、表現を学ぶ。 単品の構成	○	○	○		a:対象を観察する態度。 b.c：構成力、観察力、表現力	観察（取組状況、制作態度） 提出作品
	立体構成①	幾何立体を使って立体構成の基礎を学ぶ １つの立体の内部分割の可能性について。 複数の立体の組み合わせによる可能性について。 モチーフの特徴を捉えた構成、観察、表現を学ぶ。 複数品の構成			○	○	c.d:立体のもつ量感について理解するようつとめたか。 発見があったか。	観察（取組状況、制作態度） 提出作品
	立体構成②	素材の違うものを組み合わせての立体構成。 素材の特徴を生かす			○	○	c.d:表現技法に工夫できたか。 素材の特徴を生かした構成ができたか。	観察（取組状況、制作態度、応用力） 提出作品
2学期	夏休みの課題	高校展鑑賞				○	d:理解力と鑑賞力 芸術に対する意欲、興味を持っているか。	鑑賞レポート
	レポート	夏休みまでに学んだ事の確認および、自己・相互評価				○	d:理解力と鑑賞力 描写表現に対する意欲、興味を持っているか。	レポート（作品スケッチ、文章
3学期	立体構成③	ひとつの素材を選択し、時間（後期全て）をかけて立体作品を制作する。 素材の特徴を生かす。			○	○	c.d:表現技法に工夫できたか。 素材の特徴を生かした構成ができたか。	観察（取組状況、制作態度、応用力） 提出作品

	レポート	冬休みまでに学んだ事の確認および、自己・相互評価				○	d:課題の目的、目標を理解し、制作に取り組むことができたか。 自己・相互評価。	レポート（作品スケッチ、文章）
	レポート	一年間をとおしての自己評価を含めた感想文。	○			○	a.d: 1 年間の勉強を通して造形に対する基礎知識の習得と制作･展開する姿勢ができたかどうか。	レポート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。